首都大学東京大学院
人間健康科学研究科
人間健康科学専攻
作業療法科学域

Tokyo Metropolitan University
Department of Occupational Therapy
Graduate School of Human Health Sciences
2017

TOKYO
METROPOLITAN
UNIVERSITY

作業療法科学域

ディプロマ・ポリシー

作業療法科学域では，自ら問題を発見して新たな治療や援助の手法を開発研究する能力を持ち，専門職の発展のために，さらには保健医療福祉サービスの充実のために貢献する行動力を備えた高度実践専門家を育成するとともに，科学的な思考と探求力を備えた作業療法科学の教育・研究者を育成する。

アドミッション・ポリシー

作業療法科学域では，科学的，社会的，文化・創造的に幅広い視点から自分自身の作業療法体験を振り返り，知識の再構築を図ることによって視野を広げ，他専門領域との横断的研究や国際的学術交流などを経験する意欲をもち，作業療法全般，あるいは一般臨床から地域社会におけるヘルスプロモーション全体に貢献する人に，学ぶ機会と研究のための環境を提供する。そのため，幅広い教育力，マネジメント力，そして研究力を身につけ，作業療法の創造的発展に貢献しながら，国際的にも活躍できる可能性を持つ人，あるいはそうした努力を惜しまない人を求めている。

【博士前期課程・全領域共通】

専門性の深化を図る様々な基礎研究は根拠ある作業療法としての信頼性をもたらす。そうした理論，実験などの基礎的研究から，臨床における問題解決のための実践研究まで，幅広い研究に興味と関心を示し，ある程度の研究経験を有する人。

【博士後期課程・全領域共通】

根拠に基づく作業療法学研究において，先駆的な役割を担うこと，または新しい知見が予想される研究を実践し，対象者の臨床から社会生活全般にわたる作業療法の実践的有効性と社会的役割を前進させるための意欲と能力を持つ人を求める。

カリキュラム・ポリシー

前期課程，後期課程ともに，変化を続ける社会状況に対応し，新たに出現してきた健康上の問題（健康増進・障害予防）や障害構造の変化（老年期障害、特に認知症高齢者、発達期障害、特に自閉症スペクトラム障害などの発達障害児・者の増加，及び，地域で生活する障害者の増加）に対処できる教育課程を編成している。特に，地域作業療法学を充実させ，障害を持つ子どもから高齢者に至るまでの多様な人々の地域参加を促進するような教育課程に重点を置いている。なお，社会人学生の就学を支援するために，昼夜開講制を採用し，土日，祝日も開講している。

作業療法科学域　博士前期課程　カリキュラムツリー

作業療法科学域　博士後期課程　カリキュラムツリー

分野紹介

心身機能作業療法科学

本分野は，人間を構成する身体，精神・心理，発達の領域研究とそれぞれの学際性ならびに統合研究を行うことを目的とします。とくに人間心理と活動，生活，環境，文化の視点から新しい作業療法研究，教育，臨床を創造していく意欲と想像力に溢れた陣容で構成されています。質的研究，量的研究はもちろん，混合研究法の発展を踏まえながら根拠に基づく作業療法を確立し，より豊かで開かれた社会と人間真理の追求に貢献できる意欲をもつ「研究者の卵」を広く募集いたします。私たちと一緒に Core of human being を 探求しませんか。

作業行動科学

作業行動（Occupational Behavior）や作業科学（Occupational Science）は作業療法創始者たちの理念を現代化するために提唱されたものです。本分野ではこれらの理論の更なる展開のために，関連する哲学やシステム的発想，行動科学といった諸概念の応用を図ります。そして，作業が人々の健康と幸福にどのように影響するのか探っていきます。本分野では理論の様々な作業療法領域への応用やエビデンスの産出のみならず，作業を通して住民が健康になれるような地域づくりにも積極的に参画して，作業療法の可能性を広げていきたいと考えています。

作業生活環境科学

対象者が心から望む作業occupationを可能とするために，環境へのアプローチは欠かせません。本分野で学修していく環境には，福祉機器・用具や住宅改修などの物的環境，介護家族や専門職スタッフなどの人的環境，サービスや制度などの政策的環境，震災や気候変動などの自然環境，スティグマや社会規範などの文化的環境が含まれます。このような環境がいかにして人の作業参加を阻害・促進するのかを明らかにし，人の生活を豊かにする手だてを提案していくのが本分野のミッションです。

教員紹介

教員名	職位	研究領域
石井 良和	教授	精神領域の作業療法および人間作業モデルの評価・適用に関する研究
大嶋 伸雄	教授	身体障害の作業療法、認知作業療法、リハビリテーション・マネジメント理論、多職種連携理論（IPC）・他職種連携教育（IPE）に関する研究
小林 法一	教授	高齢者の地域作業療法に関する研究
小林 隆司	教授	地域包括ケアにおける作業の習慣化プロセスの解明と介入プログラムの開発
ボンジェ・ペイター	教授	作業療法と作業科学、身体障がいのある成人と高齢者、参加形と観察研究方法（ナラティブや相互浸透・トランスアクション論）、多職種間連携と多職種間連携の教育
石橋 裕	准教授	特定高齢者（特に閉じこもり）の作業に関する研究、身体障害の作業療法に関する研究
伊藤 祐子	准教授	発達障害児の作業療法における評価・支援システムの開発、感覚統合、小児の支援機器、おもちゃ、遊具、特別支援教育の作業療法に関する研究
井上 薫	准教授	作業療法教育および福祉用具・評価・トレーニング機器の開発、医療・福祉ロボットの臨床応用
藺牟田 洋美	准教授	高齢者心理学：閉じこもり高齢者への心理的支援法、高齢者の居場所感の研究
谷村 厚子	准教授	精神科領域の作業療法に関する研究、地域精神保健サービスに関する研究、作業療法教育に関する研究
橋本 美芽	准教授	高齢者・障がい者の障害特性と住環境・福祉用具の適合に関する研究、認知症高齢者の住環境整備に関する研究
宮本 礼子	准教授	functional MRI を用いたヒトの自他認識に関する研究、学生の総合臨地実習に関する自己認識の研究、作業療法学生の自己認識に関する国際比較研究
須山夏加	特任 准教授	身体障害の作業療法、作業療法教育に関する国際比較研究、東南アジア地域における作業療法に関する研究、専門職連携・教育（IPW/IPE)に関する研究

学位論文

平成28年度修士論文

車いす利用目標の達成状況に影響を与える要因～要介護高齢者を対象としたインタビュー調査～
脳卒中片麻痺患者の身体認知およびADLの自己評価とセラピスト評価との差が日常生活活動の回復過程に与える影響について
入学直後の医療系学生に対し、主体的な生活を支援するための「学生生活自己マネジメントプログラム」の検討
脳卒中片麻痺者が生活のなかで麻痺手の使用・不使用にいたる過程
回復期リハビリテーション病棟における認知機能の低下した高齢者への色カルタを用いた集団活動の効果
回復期リハビリテーション病棟入院中のクライエントと担当作業療法士の相互理解のプロセス
脳卒中当事者が介護保険下の通所リハビリテーション利用を修了していく経験プロセス－複線径路等至性アプローチによる分析－
他者の表情観察を通した認知的共感と情動的共感の神経基盤－成人女性を対象として

平成28年度博士論文

作業療法発の住環境整備のための記録用紙の開発
Validation of a global scale to assess the quality of interprofessional teamwork in mental health settings（精神科における多職種チーム医療の質を測定する尺度の開発）
都市郊外在宅高齢者の健康3要因、社会経済的要因、就労と3年後の新規要介護度との関連構造
"幼児の意味のある作業とは～発達障害領域の作業療法士へのインタビューから～"

平成27年度博士論文

作業療法プログラムの違いが高齢者の健康統制感と効果指標との関係に与える影響～ランダム化比較試験～
「精神科デイケア適応質問紙」の妥当性と信頼性
Development of a Resilience in Daily Activities Scale (RDAS) of Mothers of Children with Autistic Spectrum Disorder（自閉症スペクトラム障害児をもつ母親の日常生活におけるレジリエンス尺度（RDAS）の開発）

作業療法科学域の国際交流

海外への留学・研修

- 英国オックスフォード・ブルックス大学 Oxford Brookes University(OBU)

本学は国際化推進のため、2012年にOBUと協定を結び、以降、教育・研究の国際交流を継続しています。夏季には大学院グロバールコア医療人材短期研修を実施し、毎年数名の院生が参加しています。この取組は、本学の院生が英国の大学教員や院生と議論したり、作業療法の現場を見学したりすることにより、自身の 研究を異文化の中で多面的に検討し、国際的視野に立った研究実践力を育むことを目標としたプログラムです。

- ユーロマスター European Master of Science in Occupational Therapy

ユーロマスターは、アムステルダム応用科学大学（HvA）に本部を置き、ヨーロッパの５つの大学により提供される作業療法の修士課程です。2017年4月、HvA保健学部作業療法学科と首都大学東京大学院人間健康科学研究科との国際交流協定が締結され、大学院修士課程の単位読み替えが可能となりました。留学可能な大学：Amsterdam University of Applied Sciences (the Netherlands), University of Brighton Eastbourne (United Kingdom),
Zurich University of Applied Sciences Winterthur (Switzerland)

EUROPEAN MASTER of SCIENCE in OCCUPATIONAL THERAPY

- 海外短期研修

本学大学院（修士課程・博士課程）では首都大学東京の派遣留学生経済支援制度を利用し、３ヶ月か ら６ヶ月の短期留学も可能です。2015年度には、博士課程の院生がカロリンスカ研究所に留学し、教授陣のもとで研究活動を実施し、院生同士の議論、国際学会への発表などを通して、自身の研究テーマをより幅広い視点で探求し、グローバルな研究者としての歩みを進めました（カロリンスカ研究所とは2015年に部局間協定を結び、教育・研究を通した国際交流、学生・教員交流を継続して行っています）。その他、指導教員のアレンジによりアメリカ をはじめ海外の大学への研修なども行っています。

留学生の受け入れ

- 首都大学東京東京都都市外交人材育成基金を活用した外国人留学生の受け入れ: 2012年より博士および修士課程に、アジアからの留学生を受け入れています。2017年度は4名が在籍しています。
- 首都大学東京アジアの高度先端医療者育成事業による外国人留学生の受け入れ：2017年度より支援機器関連の研究テーマで、アジアからの修士課程学生を受け入れます。将来、東京とアジアの架け橋となる作業療法人材育成に貢献します。
- 大学院科目「Advanced Occupational Therapy」：毎年、海外のさまざまな大学から講師を招聘し、インターナショナルな視点で作業療法を学ぶとても魅力的な機会を提供しています。
- TMU-OT Graduate School International Seminar ：留学生のためのセミナーとして毎月1回開催しています。留学生、指導教員、英語でのプレゼンテーションやディスカッションを磨きたい日本人学生が参加しています。

2017 首都大学東京大学院
人間健康科学研究科 作業療法科学域

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY TMU

■ 首都大学東京アクセスマップ

各キャンパスの位置と交通アクセス

荒川キャンパス

所在地
〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10
Tel 03-3819-1211（代表）
所属組織
健康福祉学部、人間健康科学研究科

アクセス
日暮里・舎人ライナー「熊野前」駅下車徒歩３分
都電荒川線「熊野前」駅下車徒歩３分
田端駅から都営バス端 44 系統「北千住駅行」に乗車「首都大荒川キャンパス前」下車徒歩 0 分

南大沢キャンパス

所在地
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1
Tel 042-677-1111（代表）
所属組織
都市教養学部、都市環境学部、人文科学研究科、社会科学研究科、理工学研究科、都市環境科学研究科、人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス学域

アクセス
京王線相模原線「南大沢」駅改札口から徒歩約５分
※改札口を出て右手に緑に囲まれたキャンパスが見えます。